

## 森下葉子さんの事例概要

## 【本人及び家族の状況】

## ＜基本情報＞

森下葉子さん 68歳 女性 東京近郊（千葉県）の住宅地在住  
要介護3 障害老人の日常生活自立度 A2 痴呆老人の日常生活自立度 正常  
身長 155cm 体重 47kg

## ＜本人の希望＞

今のベッドのある部屋は玄関や廊下の人の動きが伝わり、また、息子の帰宅時間が遅くて落ち着かない。今までどおり日当たりのよい2階で生活したい。2階に上げられるようになりたい。

## ＜家族の希望＞

今までは1階が長男世帯、2階が本人世帯であった。本人の退院に伴い、急遽1階にベッドを入れたが、できれば今までどおり2階で生活できるようにしたい。またできれば今までどおり（少なくとも多少は）家事ができるようになってもらいたい。

## ＜生育歴及び生活歴＞

昭和10（1935）年横浜生まれ。高等学校（商業科）卒業後、横浜市内で会社勤め（事務職）。25歳で高等学校教員の夫と見合い結婚し退職。男女2人の子供を出産し、専業主婦。昭和42年、それまでのアパートでは手狭になったので、現在の土地を購入し自宅を新築、転居した。以後現住所にて生活している。

## ＜現病歴＞

半年前のある朝、布団から出ようとしたところ起き上がることができず、救急車にて近所の救急病院に搬送される。救急車に乗るまでは意識があったがその後意識消失。診察の結果、脳梗塞（右中大脳動脈領域）と診断され即時入院。保存的治療を受けるが、左片マヒが残存。その後、リハビリテーション目的で、都内の回復期リハビリテーション病棟に転院し、理学療法、作業療法、言語療法を受け、病棟内4点杖歩行見守りの状態で、5日前に退院した。入院中に要介護認定を受けている。なお、退院の1週間前にケアマネジャーが決まり、介護保険でポータブルトイレを購入。ベッド、マットレス、ベッド用手すり、4点杖をレンタルで取り揃えた。

## ＜既往歴＞

これまで医者にかかったことがないことが自慢だったが、今回の入院で糖尿病を指摘され、現在、薬と食事療法（1200kcal）による治療中であるが、血糖値は安定している。また同様に高血圧も指摘され、降圧剤服用により140～160/90程度で管理されている。

### <家族構成と発病前の生活状況>

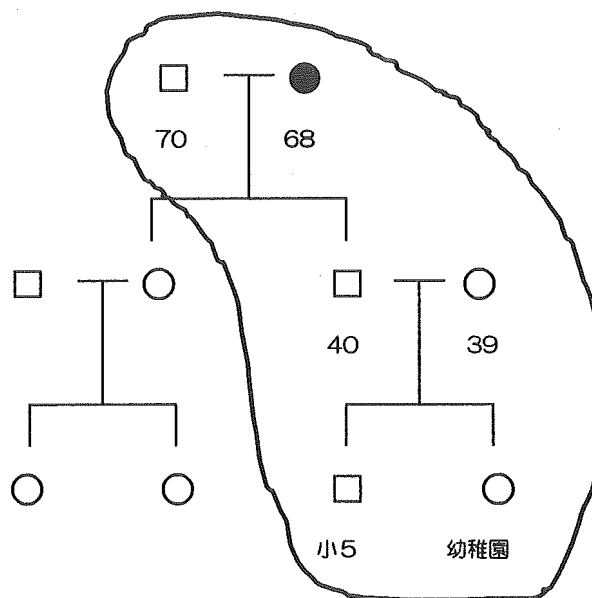
70歳の夫、40歳の長男、39歳の長男の妻、小学5年生と幼稚園児の孫の6人暮らし。

夫は高等学校の校長を最後に60歳で定年退職後しばらくは、再雇用で事務仕事などしていたが、年金受給後(65歳以降)は無職。最近は庭いじりや趣味の魚釣りなどを楽しんでいる。

長男は商社員で海外出張も多く不在がち、長男の妻は都内の区役所に勤めている(事務職)。小学5年生の孫は学区の小学校に通学しており、長男の妻が帰宅するまでは、本人や夫が面倒を見ており、幼稚園の孫の送り迎えも、本人や夫が行くことが多かった。

また、調理や掃除など日常の家事はほとんど本人が任っていた。長男の妻にとっては、仕事と育児の両立に欠かせないものであった。

夫は160cm 58kg、長男は172cm 70kg、長男の妻は162cm 48kgで、現在のところ孫も含め、家族には健康上の問題や不安はない。



### <経済状況>

夫の共済年金と、長男と長男の妻の就労所得があり、現在の生活には問題ない。本人の預貯金も500万円程度あり。

### <日常生活活動の状況(退院直前の病院での状況)>

食事：ベッド端座位にて自立。

排泄：日中は看護師等の付き添いにより病棟トイレを利用。移動は4点杖により見守りで歩行可能だが、立位バランスが不良のため、下衣の着脱に介助が必要。夜間はポータブルトイレを使用。移乗は自立だが、下衣の着脱と後始末に介助が必要。

更衣：上衣は自立。ボタンの着脱も可能。下衣及び靴下は介助が必要。

入浴：病棟の個別浴槽(家庭用浴槽)にて介助で入浴。着脱衣はいすに座って行うが、下衣は介助が必要。浴室内は手すりにつかまって歩いて移動するが、短下肢装具を装着していないので不安定となり、介助が必要。浴槽出入りは手すりにつかまって腰掛けて、右側(非マヒ側)から可能だが、マヒ側下肢の浴槽出し入れと浴槽内立ちしゃがみに介助が必要。洗体、洗髪はシャワーチェアに座って行うが、洗髪及び下肢を洗うには介助が必要で、上半身を洗うときには、ループ付タオルを使用していた。

移動：歩行は短下肢装具を装着し、4点杖にて見守り～軽介助で、20メートル程度歩行可能。立位保持はバランスが悪く、また恐怖心もあるため手放しではなさない。屋外歩行は困難。5cm程度であっても段差昇降はできない(身体を支えるような介助が必要)。立ちしゃがみは座面の高さ40センチ程度のいすからはつかまって可能だが、それよりも低いところからは介助が必要である。

## <コミュニケーション>

コミュニケーションに関しては特に問題を感じていない。病前と変わらない状態。

### 【退院にあたっての主治医の意見】

退院後しばらくの間は、週2回程度の外来通院による理学療法、作業療法が必要である。その後は廃用症候群の予防の観点からも、外出機会を確保するためのサービスが必要と考えられる。また糖尿病、高血圧の管理も必要となるため、近所にかかりつけ医をみつけ、定期的に受診する必要がある。

### 【住宅の状況】

1階の台所、食堂、居間、浴室、トイレを2世帯で共用している。今回の入院前は2階が本人夫婦の居室で、8畳和室を寝室として使用していた。退院直後の現在は、長男世帯であった1階の部屋にとりあえずベッドとポータブルトイレを入れて寝起きしている、という状態である。自宅周辺の道路には、急坂、階段等はない。

### 【現在の状況】

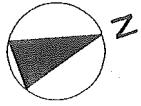
現在は退院後5日目。ほとんど歩行もせずベッド上で過ごすことが多い。排泄はトイレに行こうとして転びそうになってから、ポータブルトイレで済ませている。

入浴については、一昨日夫と長男の妻で試みたが結局実施できず、退院後まだ1回も行っていない。外出は一度病院に連れて行っただけである。

夫は本人の入院中も頻繁に見舞いに病院へ通い、本人の心の支えになっており、今後できるだけがんばりたいと思っている。しかし日中、本人と二人きりの時に何かあった場合の対応に不安を感じている。孫の幼稚園の送り迎えは夫が行っているが、その間本人を一人にすることも不安で、今後どうするか、家族で思案中である。

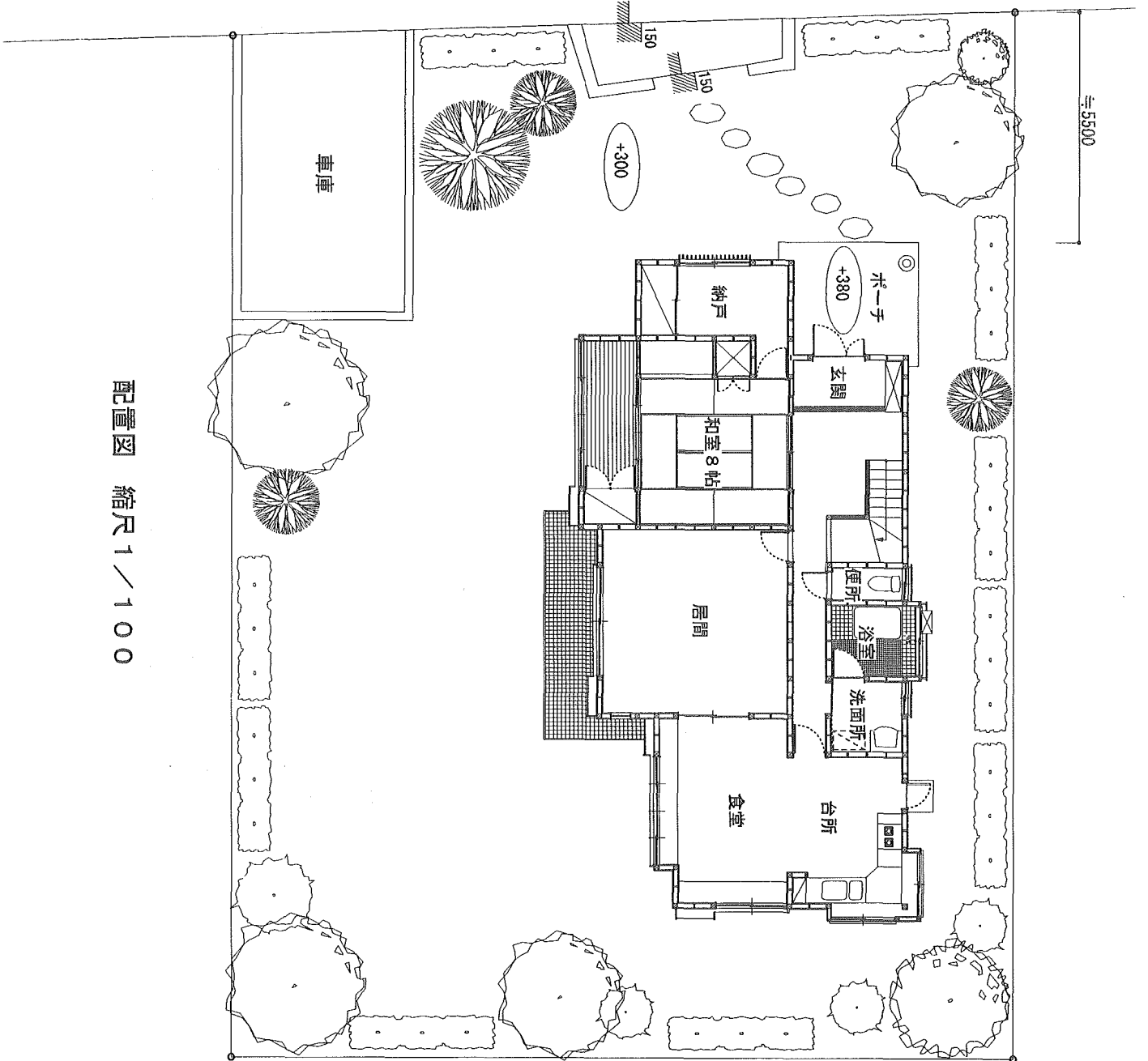
本人入院後は、家事は長男の妻を中心に行っている。長男も協力しているが帰宅も遅くあまり協力できていない。長男の妻は子供の世話に加え、夫及び長男の食事の世話など、家事の負担が重いと感じ始めている。

家族関係は良好で、協力し合っていこうという気持ちが固まっているが、具体的な計画をもてず、当惑している状況。本人たちのことについて、最終的な決定権は本人と夫にあって、話し合っただけで決めている。息子夫婦は本人たちの決定に反対する気持ちはない。

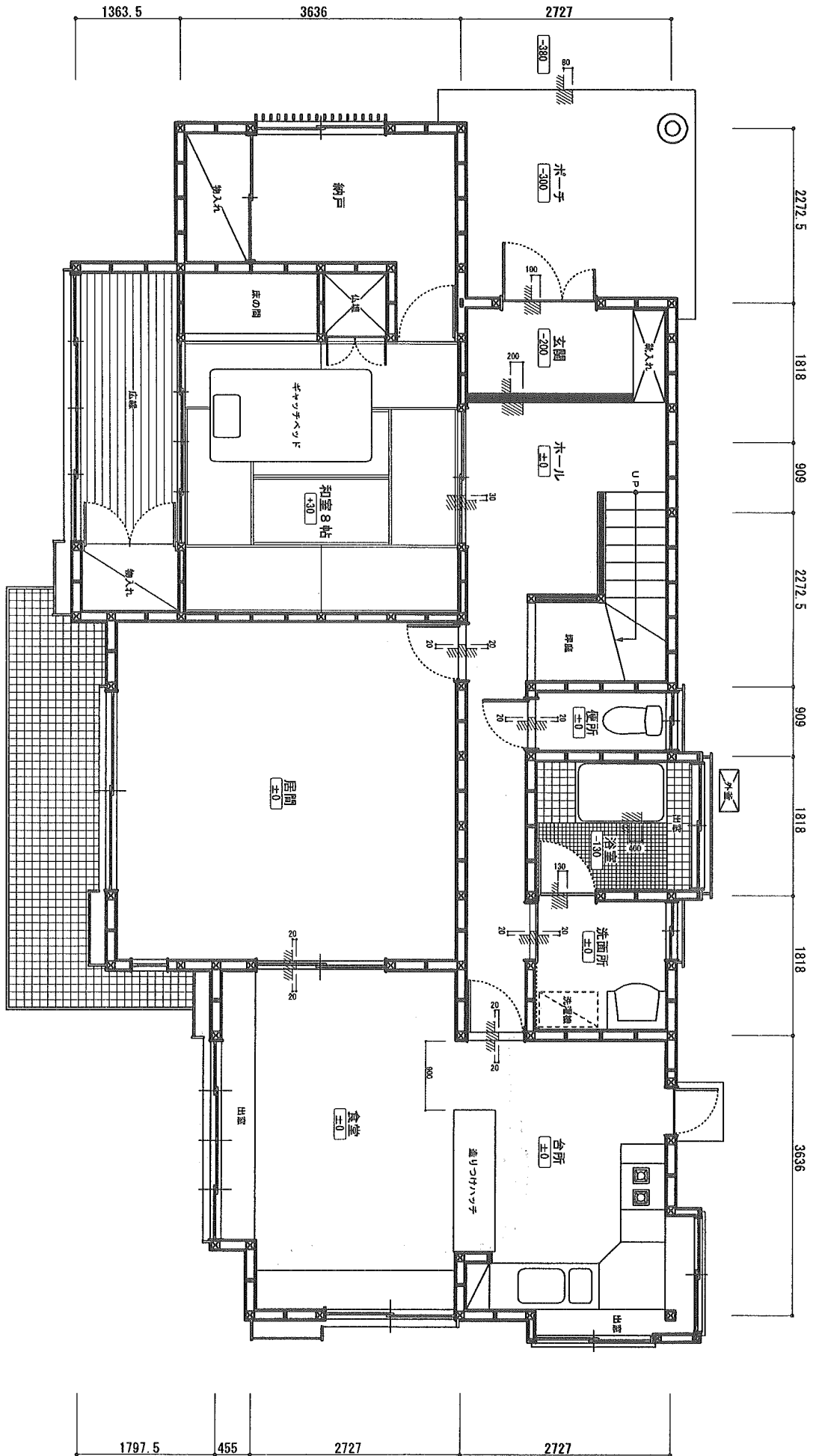


±0

道路




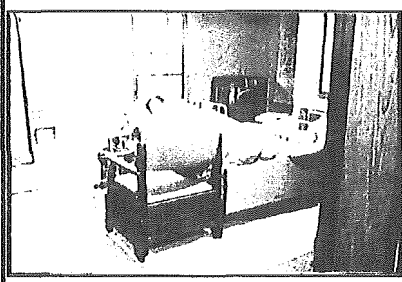

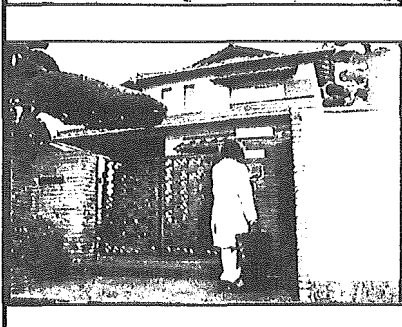

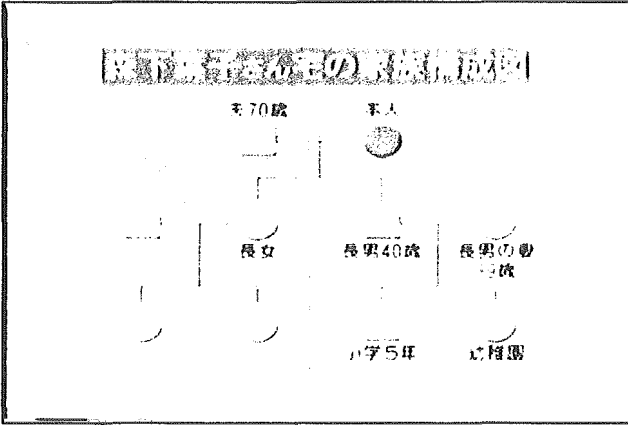
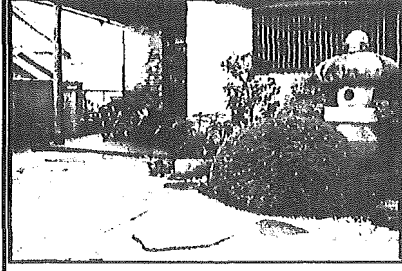
配置図 縮尺1/100


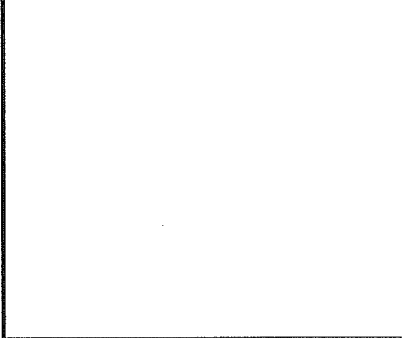
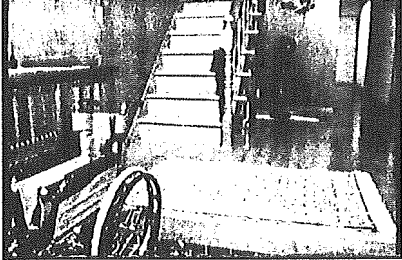

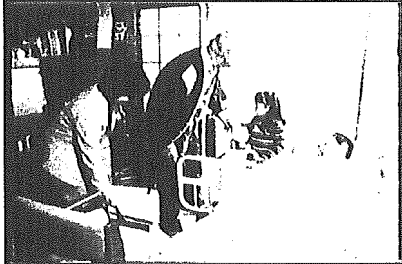



1階平面図 縮尺 1/50




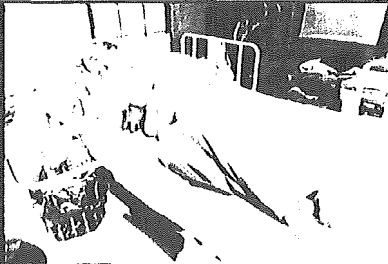

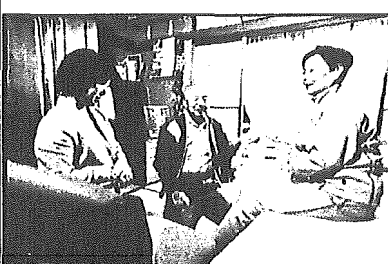
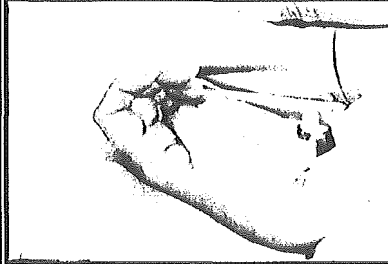
演習ビデオのポイント (居宅サービス計画の立案に向けた課最分析の実際)




映像	ナレーションおよび台詞
 <p>森下葉子(68歳)さんの事例 介護度: 要介護3</p>	<p>NA: 森下葉子さん68歳は、半年前に突然脳梗塞となり入院。保存的治療を受けましたが、左片マヒが残存、その後、回復期リハビリテーション病院に転院し、入院中に要介護認定を受け、要介護3と判定</p> <p>今日は、葉子さんが退院して自宅に戻ってから5日目です。</p>
 <p>ケアマネジャー 大石さん</p>	<p>NA: こちらは担当ケアマネジャーの大石さんです。</p> <p>今日は、今後、葉子さんが在宅での生活を続けていくために必要なことについて話し合うための退院後初めての訪問です。これからの生活をどのように支えていったら良いかを、ケアマネジャーの大石さんとともに、みなさんも考えてみて下さい。</p>
	<p>森下さんの家は築30年あまりの2階建ての日本家屋です。今までは1階を長男世帯が、2階を葉子さん夫婦が使っていましたが、本人の退院に伴い、急遽1階に電動ベッドを入れました。</p>
	<p>まず、森下家の家族構成を見てみましょう。葉子さんには、70歳の夫がいます。同居家族として、40歳の長男とその妻、そして小学5年生と幼稚園児の孫がいます。</p>
	 <p>森下家の家族構成図</p> <pre>     graph TD       A[本人 70歳] --- B[長女]       A --- C[長男 40歳]       C --- D[長男の妻]       C --- E[小学5年]       C --- F[幼稚園]       </pre>
	

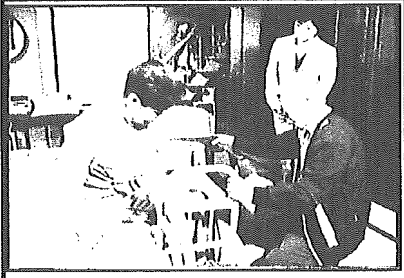




映 像	ナレーションおよび台詞
	<p>大石:「ごめんください、ケアマネジャーの大石です。」</p> <p>ご主人:「どうぞ、お待ちしております。」</p> <p>大石:「先ほど、お電話では失礼いたしました。」</p>
	<p>ご主人:「いや、ちょっと孫の迎え時間があったもので…。」</p> <p>大石:「もうお済みですか…。」</p> <p>ご主人:「ええ、以前は家内がやってたんですよ…、(孫に向かって)挨拶しなさい。」</p>
	<p>大石:「こんにちは。」</p> <p>孫:「こんにちは。」</p> <p>大石:「失礼します。」</p>
	<p>ご主人:「大石さん見えたよ…。」</p> <p>大石:「おじゃまします。」</p>
	<p>大石:「こんにちは…、大石です。」</p> <p>葉子:「お世話になりました。」</p> <p>大石:「いえ、今日はこれから、どんなふう暮らしのお手伝いをさせていただくか、奥様と一緒に考えて行きたいと思いますが、よろしいですか。よろしくお願いします…。」</p>
	<p>大石:「退院されていかがですか…、少しは生活は落ち着かれましたか？」</p>



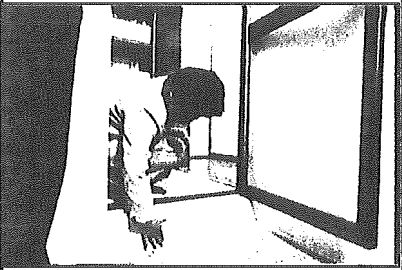
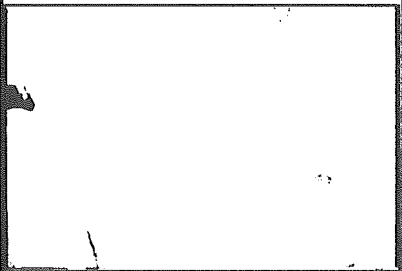
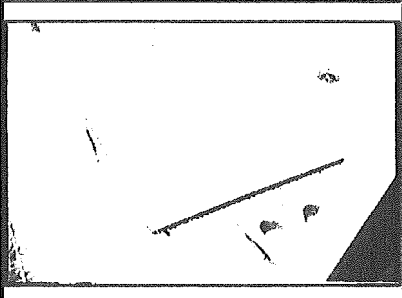
映 像	ナレーションおよび台詞
	<p>葉子:「落ち着いたといえますか…、何もできなくて…。」</p> <p>大石:「お孫さんのことですか…?」</p> <p>葉子:「それもありますが、なにかするにしても主人に頼らなくちゃいけませんので…。」</p> <p>大石:「…。」</p> <p>葉子:「そしたら、こうやって、寝ている方がいいかと思っています…。」</p> <p>大石:「日中も、こうしてずっとベッドに横になっていらっしやることが多いんですか?」</p> <p>葉子:「ええ、食事や・トイレの時以外は…。」</p> <p>大石:「…?」</p> <p>葉子:「やはり、何かしようとする、主人に迷惑がかかりますので…、何にもしないで寝ていたほうが一番いいんじゃないかと思っています…。」</p> <p>大石:「病院では、ずいぶんリハビリをがんばってらっしゃったというふうに伺ってましたけど…。」</p> <p>葉子:「でも、やっぱり、家ではね、なかなかできなくて…。」</p> <p>大石:「まだ退院したばかりですものね…、まずは、できることからやってみましょう。それが大切だと思いますよ…。」</p> <p>葉子:「…。」</p>


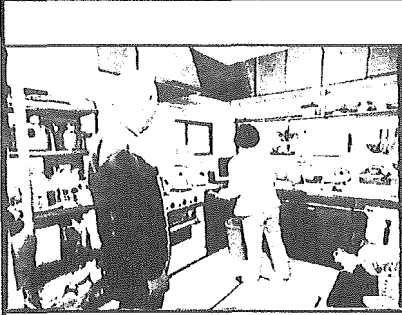
映 像	ナレーションおよび台詞
	<p>大石:「ちょっと、起き上がってみましょうか？」</p> <p>葉子:「ええ…。」</p> <p>ご主人:「じゃ、いつもやっているようにやってみてごらん…。」</p>
	<p>大石:「お一人で上手に起きあがれましたね…。」</p> <p>葉子:「…。」</p> <p>大石:「日中は、どう過ごされることが多いんですか？」</p>
	<p>葉子:「ほとんどテレビを見たり…。たまには、孫に絵本を読んでやったり…。」</p> <p>大石:「他には…。」</p> <p>葉子:「いろいろやりたいんですけど…、ほとんど、主人がやってくれますので…。」</p>
	<p>大石:「そうですか…、お食事もここでなさるんですか？」</p> <p>葉子:「ええ…。」</p> <p>大石:「お支度はどなたが？」</p> <p>葉子:「朝は、嫁が…。後は主人が…。息子夫婦は夕食が遅いので、時間が合わないんですよ。」</p> <p>大石:「そうですか…。」</p>
	<p>葉子:「主人が、よくやってくれますので…。」</p> <p>大石:「良かったですね。」</p> <p>葉子:「ええつい、頼ってしまって…、でも一日も早く…元に戻りたくて…。」</p>


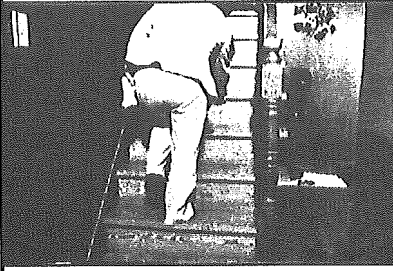
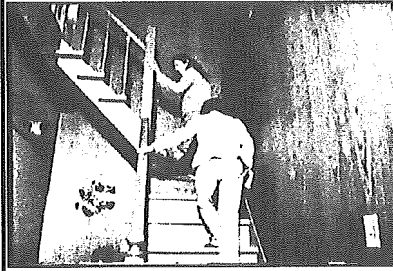

映 像	ナレーションおよび台詞
	<p>大石:「それはそうですよね。病院の先生からも聞きましたよ。森下さんは努力家ですって…。」</p> <p>葉子:「やはり、主婦ですから、できれば台所に立ちたいと…、やはり無理みたい…。」</p>
	<p>大石:「…、無理ですか…?」</p> <p>葉子:「ほんとはね、家に帰ると、孫やたちと息子たちと一緒に、食事ができるかしらと思ったんですけどね…。」</p>
	<p>大石:「そうですね…。」</p> <p>葉子:「できるようになるかしら…、みんなに迷惑がかかると思って、つい考えちゃって…。」</p>
	<p>大石:「そんなことはないですよ…、こんなに長く座っていられますし、ここから食堂まで動くことができれば、みなさんと一緒にお食事できると思いますよ…。」</p> <p>葉子:「それがね…、歩いていこうとしたんですけど怖いです。転びそうで…。床も滑りそうだし、杖をついても転びそうで…。一度、主人にトイレまで連れて行ってもらったんですけど、一緒に転びそうになってしまって…。それ以来、ベッドから離れるのが怖くて…。」</p>
	<p>大石:「そうだったんですか…病院では杖で歩けたのに、お宅では難しいですか…?」</p>
	<p>ご主人:「ええ。それで、つついポータブルトイレを…。」</p> <p>葉子:「…本当はね、ポータブルトイレを使うのは、いやだったんですけど…。これ以上なにかあると、つい主人に迷惑かかると思って…。」</p>
	<p>ご主人:「迷惑だなんて。そんなことはないよ。」</p> <p>葉子:「…。」</p>

映 像	ナレーションおよび台詞
	<p>大石:「恐れ入りますが、ちょっとポータブルトイレに移る様子を見せて頂けませんか？」</p> <p>葉子:「ええ・・・。」</p>
	<p>ご主人:「じゃ、いつもやっているようにやってみようか。」</p>
	
	
	<p>ご主人:「こうしてズボンを上げたり下げたりするんですよ。それが大変なんですよ・・・。」</p> <p>大石:「・・・。」</p> <p>葉子:「だから・・・なるべく迷惑は、かけたくないんですよ・・・。」</p>
	<p>ご主人:「迷惑なんかしてないよ・・・。でも、自分で行けるといいですよね・・・。」</p> <p>大石:「・・・。」</p>

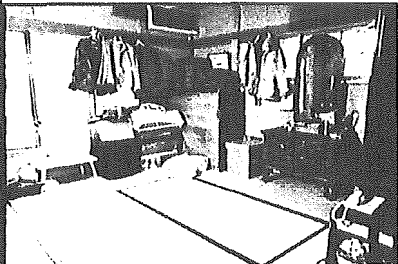

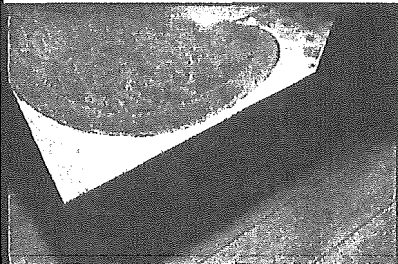


映 像	ナレーションおよび台詞
(図面参照)	<p>NA: ここで、この家の間取りを簡単に見てみましょう。画面左上にある玄関を入ると、すぐ右手に電動ベッドが置かれている和室があります。そのとなりに、居間、食堂、台所が続きます。居間の向かい側にトイレ、浴室、洗面所があります。2階は和室が二間並び、その右手に洋室があります。また、トイレ、洗面台もあります。倒れる前は階段を上った正面の和室を寝室として使っていました。</p>
	<p>大石: 「…、ちょっと、トイレを拝見させていただいてよろしいですか？」</p> <p>ご主人: 「どうぞ。」</p>
	<p>大石: 「一度、トイレまでご主人が介助されて行かれたと いっておられましたか？」</p> <p>ご主人: 「二度ほどですよ…、家内を抱えてトイレへ行こう としたんですけど、なかなかうまくいきませんでして ね。ずいぶん自分も体力が落ちたなと思いました よ…。」</p>
	<p>大石: 「たとえば、転びそうになったとか…。」</p> <p>ご主人: 「そうなんです。トイレにたどり着くまで一苦労だっ たんです。手すりでもありや、もっと楽なんです、 抱えていても、自分がまるで、倒れちゃうよう な…。」</p>
	<p>大石: 「危なかったですね。」</p> <p>ご主人: 「それに、さっきご覧頂いたように、やはりズボンの 上げ下ろしもね、大変でね…。」</p>
	<p>大石: 「かがむのに、腰に負担がかかってしまいますもの ね…。」</p> <p>ご主人: 「これがトイレなんです…。狭いでしょう。やはりト イレは無理でしょうかね…。」</p>
	<p>大石: 「そうですね…、病院と同じようにはいきませんか ら、トイレの動作については一度、理学療法士の方 に来て頂いて、どうしたら良いかを一緒に考え てみようと思うのですが、いかがでしょうか。」</p>

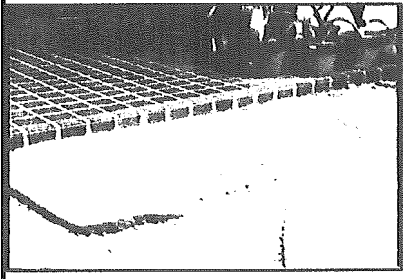
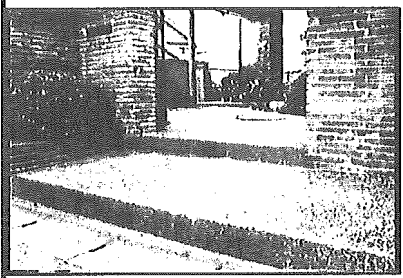




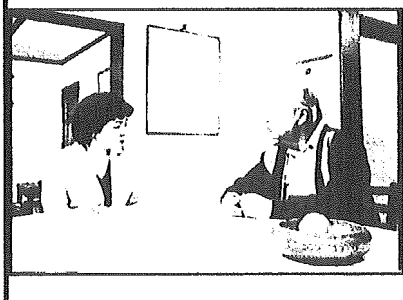
映 像	ナレーションおよび台詞
	<p>ご主人: 「ええ、そうしていただければ・・・。」</p> <p>大石: 「ところで、入浴はどうされていますか・・・?」</p> <p>ご主人: 「・・・、はずかしいことなんだけど、退院してから、一度も入れていない。いや、入れるのが怖いんです・・・。」</p> <p>大石: 「そうなんですか・・・。」</p> <p>ご主人: 「一昨日、嫁と二人で入れようとしたんだが、危なくてね・・・。シャワーだけでかぜをひいてもいけないと思って、あまり無理をしませんでした。」</p> <p>大石: 「そうでしたか、毎日の洗顔はどうなさっていますか?」</p> <p>ご主人: 「それは、朝と夜、蒸しタオルでふいています。」</p> <p>大石: 「ベッドの、ところですか。」</p>
	<p>ご主人: 「ええ・・・。」</p> <p>大石: 「あの～、ちょっと浴室を拝見させていただいてよろしいですか?」</p>
	<p>ご主人: 「ええ、もちろん。」 「この浴槽なんですよ、困っているのが・・・。」</p> <p>大石: 「・・・。」</p> <p>ご主人: 「それに狭いし・・・。」</p>
	<p>大石: 「確かに、奥様の場合、杖や装具がないと立っているのも難しいですし、浴槽も介助がないとまたぐことも大変ですし・・・。病院でも入浴は介助を受けていたようですし、浴槽も腰かけてまたいでいたようですね・・・。」</p>


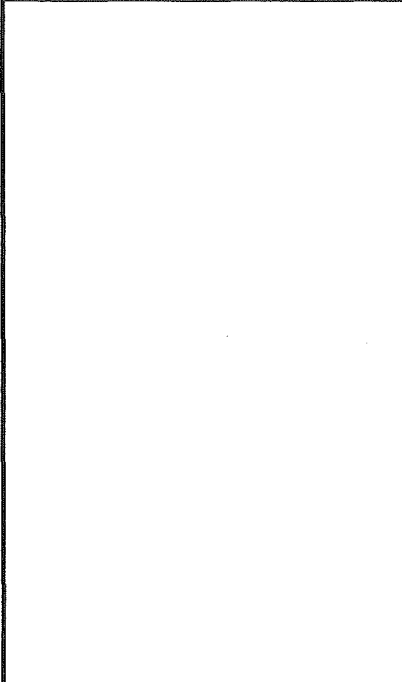



映 像	ナレーションおよび台詞
	<p>ご主人: 「やはり、なんとか風呂には入れてあげたいと思いますね…。私らでも気分転換になるんですから、家内にとってはなおさらですね。」</p> <p>大石: 「そうですね。」 「あの今回の入院前は、2階にお住まいだと伺いましたが…。ちょっと2階も拝見させていただいてよろしいですか？」</p>
	<p>ご主人: 「あっ、嫁も帰ってくるので、それからでよければ…。」</p> <p>大石: 「お嫁さんのお仕事はどのような？」</p>
	<p>ご主人: 「役所へ勤めています。今日はあなたが見えるというのですぐ帰ってくると言っていましたので、もうすぐ帰るでしょう。以前は、孫の迎えや台所やその他の家事も、ほとんど家内がやっていたんです</p> <p>大石: 「そうでしたか…。」</p> <p>ご主人: 「倒れる前は、本当によく動いたんですよ。孫たちの子育ても手伝ってました。息子の帰りが遅いもんで。嫁も家内にずいぶん感謝してましたよ。」</p> <p>「たしか、一階での生活を勧められたのは、病院でしたよね…。」</p> <p>葉子: 「ええ…。主人も、息子も、そのほうがいいって言ってたんですけど、…でもね…。」</p> <p>大石: 「何か、気になることでもありますか？」</p> <p>葉子: 「息子たちの帰宅が遅いでしょ…。それにここは玄関に近いから…。」</p> <p>大石: 「息子さんのお帰りは遅いんですか…。」</p> <p>葉子: 「ええ、ほとんど毎日、深夜になりますね…。私を気づかって静かにしてくれてはいるんですけど、夜会なんか食べてみたいで…。どうしても、音がするから気になって…。」</p>

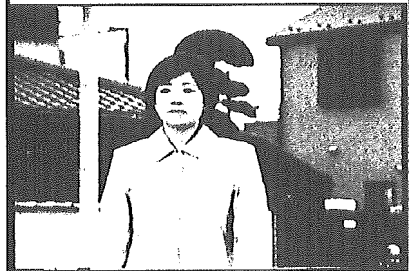
映 像	ナレーションおよび台詞
	<p>大石:「そうですか、音が気になると目が覚めてしまいますものね…。」</p> <p>葉子:「ええ。退院してからずっと眠りが浅くて…。2階は日当たりが良くて、落ち着けますから、もとのように2階で生活できたらいいと思います…。」</p> <p>ご主人:「そうだよね…。」 「おっ、帰ってきたようですよ、嫁が。」</p>
	<p>良子:「いらっしやいませ。」</p> <p>ご主人:「良子さん、ちょっとケアマネジャーの大石さん。」</p> <p>大石:「初めまして、大石です。」</p>
	<p>ご主人:「退院のときベッドなんかをお世話してくれた…。」</p> <p>良子:「お世話になっております。」</p> <p>大石:「いえ…。」</p>
	<p>ご主人:「良子さん。ちょっと2階を見たいそうなんだ…。」</p> <p>良子:「ええ、はい。ちょっと散らかっていますが…、それでよければ。」</p> <p>大石:「すいませんね。」</p>
	<p>良子:「こちらこそ…、どうぞ。」 「お義母さんが、ああなってから、お義父も本当に良くやってくれているんです。あたしは仕事が忙しくて何もして上げられなくて…。」</p>



映 像	ナレーションおよび台詞
	<p>良子：「倒れる前は、ここを寝室に使用していました。」</p>
	<p>良子：「2階のトイレはここになります…。ここは子供部屋です…。」</p>
	<div data-bbox="938 674 1337 943" data-label="Image">  </div> <p>(子供部屋)</p>
	<p>大石：「…ところで、良子さんとしては、これからお母様がどんなような生活をされることがお望みですか？」</p> <p>良子：「…、できれば、そうですね、元どおり2階での生活に戻れば良いと思っています…。でも、この階段がね…。」</p> <p>「退院ということで、急いで1階にペットを入れて上と下の生活を取り変えたでしょう。なんとなく生活のリズムが狂っちゃって…、ストレスがたまりそう。」</p>
	<p>大石：「ご主人はどんな仕事を？」</p> <p>良子：「社員です。帰りが遅い仕事なので平日はあまりあてにならないんです。それに、私も子供たちの世話や、今は家族全員の洗濯や掃除、それに食事の支度などで精一杯になってしまって。なかなかお義母さんのお世話までは手が回らないんです…。それに今は、お義父さんが保育園のお迎えまでやっているでしょ。なんとなく肩身の狭い思</p>
	<p>大石：「確かに家族全員の家事と子育て、お仕事との両立は大変ですものね。」</p>

映 像	ナレーションおよび台詞
	<p>良子：「退院の時、先生に、週に二日はリハビリのために通院してくださいと言われたんですけど、家から病院まで義母を連れて行くのが大変なんです。まだ1回しか行ってないんですけど、夫は休みが取れなかったのが私が休暇を取って、市役所の車いすを借りて、お義父と二人で母を連れていったんですけど…、慣れてないせいか、もう大変で…。」</p>
	<p>大石：「玄関にあった車いすですね…。」</p> <p>良子：「それでもなんとか玄関の外まで出たんですけど、表の通りまでがまた一苦勞で…。」</p>
	<p>大石：「そうですね。確かに玄関前は車いすでは通りにくそうですね。そこで他にも、なにかお困りのことはありますか？」</p>
	<p>良子：「困るっていうか、これからのことを考えると…。お義母さんの介護は、お義父さんの肩にかかっているでしょ…。これでお義父さんが倒れたら…と思うと、とても不安です。」</p>
	<p>大石：「確かに、お義父さんの負担が大きいですね…。」</p> <p>良子：「お義父さん、とても一生懸命で…。見ていてほんと大変だなと思うんです。そのことについて夫ともよく話し合わなくてはと思っているんですが、毎晩、深夜に疲れて帰ってくるのを見ると、なかなか話しをすることができなくて…。夫は、私が勤めを辞めるか、介護休暇を取ることを望んでいるのですが…。私、仕事を辞めるつもりはありませんし。これまで頑張ってきたんですもの…。」</p>
	<p>大石：「そうですね…。」</p>
	<p>大石：「良子さんも、かなりご主人のことを心配していました…。」</p> <p>ご主人：「そうですか…。」</p>

映 像	ナレーションおよび台詞
	<p>大石: 「ところで、ご主人は奥様のことを含めて、これからご家庭で、どのように生活されたいとお望みですか？」</p> <p>ご主人: 「少しずつでも、良くなってほしいとは思っているんですけど、あまり高望みはしていません。私も家内ももう歳ですから・・・。」</p>
	<p>大石: 「いえいえ、まだお若いですよ・・・。」 「奥様が退院なさってまだ間もないので、慣れないこともいろいろあって大変でしょうけれど・・・。少しずつご主人もご自分の時間をもてるようになると良いですね。」</p> <p>ご主人: 「そうはいつでも、日中、家内一人残して出かけるのは、何かあった時のことを考えると・・・、家内が病院に入っている時のほうが気が楽でした。」</p> <p>大石: 「私たちは、奥さんのことはもちろんですが、ご主人様にもそうですが、ご家族の方にもいい状態で生活していただけるよう、精一杯応援させて頂こうと思っているんですよ。」</p> <p>ご主人: 「・・・。」</p>
	<p>大石: 「失礼いたします、おじやまいりました。お宅に帰られていろいろ不具合なことがおありでしょうけど、一つ一つ解決していきましょうね。奥さんは右手も自由に動きますし、今は調理器具も便利なものいろいろ出てますから、工夫すればいつかきっとお料理が出来るようになりますよ。やってみましょう。」</p>
	<p>葉子: 「ほんとに、できるようになるかしら・・・。」</p> <p>孫: 「おばあちやんの料理、おいしかったものね。」</p>
	<p>葉子: 「うれしい・・・。」</p> <p>大石: 「やってみようという奥様の気持ちが一番大切なんですよ。」</p> <p>葉子: 「・・・。」</p>

映 像	ナレーションおよび台詞
	<p>大石:「トイレに行くことやお風呂にも入れることも夢じやないですよ…、希望をもちましょう。」</p> <p>葉子:「…。」</p> <p>NA:「ケアマネジャーの大石さんの訪問を通して、退院5日目の森下葉子さんの生活の様子を見ていただきました。これからの生活をどのように支えていったら良いかを、皆さんで考えてみて下さい。」</p>
	<div data-bbox="683 712 1310 1126" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p><b>企 画</b></p> <p><b>ケアマネジャー向け住宅改修の研修プログラムの開発に関する研究班</b></p> <p><b>鈴木 晃</b> 国立保健医療科学院健康衛生部健康住宅室長</p> <p><b>橋本美芽</b> 東京国立保健科学大学助教授</p> <p><b>金沢美智</b> 信州大学助教授</p> <p><b>藤崎花子</b> 愛知大学短期大学部専任講師</p> <p><b>中 祐一郎</b> 金沢大学助教授</p> </div>